

1 授業実践例（高学年）

（3）6年生「分数のかけ算を考えよう」【分数のかけ算】（4／9時間）

<主張点>

- たっぴーシートにどのように考えを導き出したのかを言葉、数、式、図、数直線で表し、自分の考え方を整理し、確かめることができるようにする。
- グループ討議の話し合いの視点として、乗数が1より大きい場合と1より小さい場合とでは、積はどうかについて話し合うことができるようにする。
- 複数の考え方の共通点や相違点などを見いだす場面を設けることで、学び合いの良さを味わわせ、より深く学習内容を理解することができるようにする。

過程	学 習 の 流 れ	
つかむ		<p>【問題提示】</p> <p>1より大きい分数と1より小さい分数があることを明確にする。</p> <p>問題 1mの値段が200円のリボンがあります。このリボン$\frac{3}{5}$mと$1\frac{2}{5}$mの代金を求め、それぞれ200円と比べましょう。</p> <p>めあて：1より大きい分数、1より小さい分数をかけたとき、積はどうか調べて説明しよう。</p>
もとめる	<p>【自力解決：自分で考える（たっぴーシート）</p> <p>・児童の実態に応じ、数直線が予めかかれたシートも用意した。</p> <p>数直線を書くことで、乗数、被乗数の大小関係を明確にする。</p>   <p>$\frac{3}{5}$では、200円よりも安くなりそうだ。</p>	 <p>T1・T2による机間指導。支援を必要とする児童にはヒントとなる具体物などを配布する。</p>
ふかめる	<p>【共同解決：グループや全体で考えを出し合う】</p> <p>●グループ学習</p>  <p>僕はまず、数直線をかきました。1が200円ということをもとにすると$\frac{3}{5}$mのときの値段は、200円よりも安くなります。</p> <p>積がかけられる数の200より小さくなるのは、1よりも小さい数をかけたときだね。</p> <p>・グループで自分の考えを伝え合うことで、多様な考え方に触れ、よりよい考えにしていくためにはどうすれば良いか、練り上げることができた。</p> <p>・全体発表では、考えを共有し1より小さい分数をかけたとき、積はかけられる数よりも小さくなることを理解することができた。</p>	<p>●全体で</p>  <p>数直線から、$200 \times \frac{3}{5}$、$200 \times 1\frac{2}{5}$という式が立てられます。</p>
まとめる	<p>【まとめ・適用問題】</p> <p>【まとめ】 1より小さい分数をかけたとき、積はかけられる数よりも小さくなる。</p> <p>1を基準とした乗数の大小に着目すればいいんだね。</p> <p>□に当てはまる不等号を書きましょう。</p> <p>① $5 \times 1\frac{3}{5}$ □ 5</p>	

2 各学年部の実践

③高学年の実践

つかむ（課題把握）

- 児童の知的好奇心や探究心をくすぐる課題の設定
- 既習事項との関連を促す学習環境の工夫

■5年生単元「偶数と奇数、倍数と約数」での導入場面。クイズ形式を取り入れ、前時の復習をしている様子。



■既習事項を教室の側面に掲示

■5年生単元「偶数と奇数、倍数と約数」。アニメーションで課題を示し、学習意欲を高める。

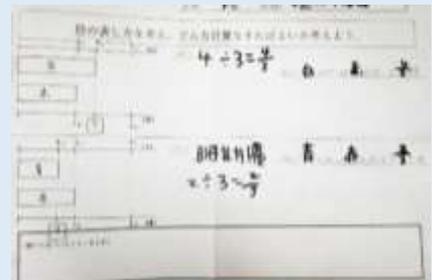
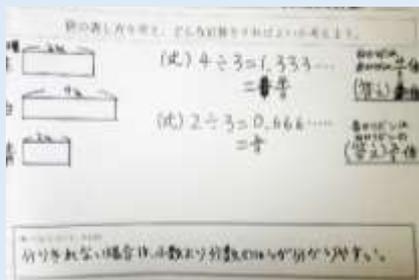
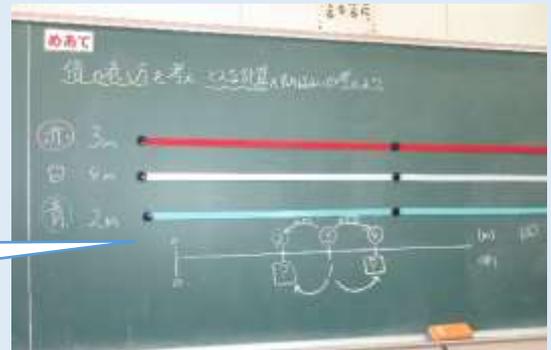
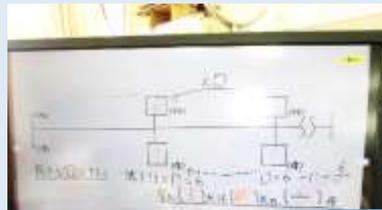


もどめる（自力解決）

- 必要に応じた具体物や半具体物の活用
- 実態に応じた学習シートの準備

■5年生「分数と小数、整数」の実践

■問題と同じ長さのテープを準備することによって、より具体的に学習することができる。

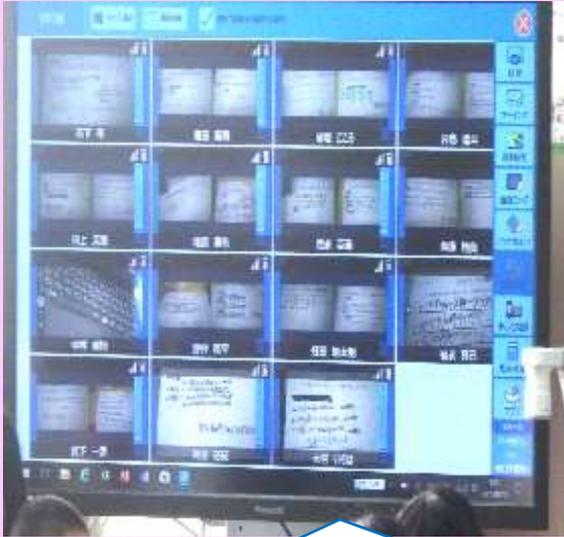


■たっぴーシートを2種類準備しておき、自力解決がなかなか進まない児童を集め、個別指導をした後もう1つのたっぴーシート（ここではテープ図入り）を配付し、考えさせた。

ふかめる（共同解決）

- グループ学習の学び方を示す
- 多様な考えを共有するICTの活用

タブレットでの画像を表示



■自分で書いた「たっぴーシート」をもとに、グループで考えを説明している。

■タブレットで「たっぴーシート」を映し、全体に自分の考えを説明している。



■一人一人のたっぴーシートを電子黒板に提示し、グループ学習で練り上げた考えを比べ、共通点や相違点を見つけながら、全体での学びを深めていった。

まとめる（まとめ・習熟）

- キーワードを入れた自分の言葉でのまとめ
- 適用問題の時間の確保



■まとめの段階で、子どもにキーワードを与えて、自分の言葉で学習したことを文章にしていた。



■習得したことを活用するために適用問題に取り組む時間を必ず確保した。

成果(○)と課題(●)

- 「つかむ」場面でアニメーションを提示したり、クイズ形式を設定したりしたことは、児童の学習に対する関心を高める上で大変効果的だった。
- 「ふかめる」場面でタブレットを活用したことは、一人一人が主体的に考え、自分の学びを表現しようとする意欲付けにつながった。また、考えを比べ、共通点や相違点を見ける中から、よりよい考えを導き出そうとする視点生まれ、全体での学びを深めることにもつながった。
- たっぴーシートへの記述力には個人差があり、個別の支援が欠かせない。時間内に記述できなかったり、考えを持てなかったりする児童もいて、個に応じた手立てを今後も工夫していく必要がある。